



光 和

7月号

練馬区立光和小学校

令和5年6月30日

光和小
携帯サイト



学び合い

校長 矢島 直行

早いもので、1学期も残り3週間となりました。本年度最初の学校公開には、大勢の方にご参観をいただきありがとうございました。コロナ禍での学校公開はクラスごとの公開となり、人数を制限させていただきました。今回は2クラスごとの公開とし、人数を制限しないで行わせていただきました。多くの方々に子供たちの学校での様子をご覧いただけたのではないのでしょうか。

さて、先日6年生の軽井沢移動教室がありました。集団生活や体験活動を通して子供たちはいろいろなことを学ぶことができました。カーリングでは、氷上の歩き方や滑り方、ストーンやブラシの扱いに戸惑うこともありましたが、友達と励まし合い協力し合いながらゲームをすることができるようになりました。また、自然観察トレッキングや林業体験などでは、日常生活では体験することのできない貴重な経験を通して、自然の素晴らしさを学びました。食事の配膳やバスレク、キャンプファイヤーなど、係の仕事を通して責任をもって取り組むことがいかに大切かに気付くことができました。時には思うようにいかなかったこともあったかと思いますが、その経験を次に生かしていけるようにしたいです。

集団生活では、守らなければならないきまりやマナーがあります。子供たちは普段の学校生活から学んだり身に付けたりしていますが、特に宿泊を伴う移動教室では必要となります。例えば、時間を守ることや相手を思いやるマナーです。就寝、起床時刻を守ることは、自分だけではなく周りの友達の体調管理につながります。集合時間を守ることは、集団行動を円滑にするために不可欠です。次に利用する友達のことを考え、使った風呂桶や椅子を元の場所に返しておくなど、入浴時のマナーがあります。トイレのスリッパの向きを揃えることも、周りの友達のことを思いやった行動です。

子供たちは日常生活から互いに学び合い成長していきます。このような姿から、以前旅行で行った会津のことを思い出しました。江戸時代、会津藩では藩校日新館入学前6歳から9歳までの子供たちは自分たちの町ごとに子供たちだけで十人前後の集まりをつくりました。その集まりを「什(じゅう)」といいます。そこでは「什の掟」があり、互いに遊びながら守らなければならない約束事を学びました。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ○年長者の言うことにそむいてはなりません | ○年長者にはおじぎをしなければなりません |
| ○うそをついてはなりません | ○ひきょうなふるまいをしてはなりません |
| ○弱いものをいじめてはなりません | ○戸外でものを食べてはなりません |
| ○ならぬことはならぬものです | |

この「什の掟」を守るために、子供たち同士が互いに注意し合っていました。幼いながらも相手を気遣い、周りに迷惑をかけないことを日常生活の中から学んでいきました。

私たち大人も子供たちを受けとめながらも、時には「ならぬことはならぬものです」と、いけないことはいけないと子供たちに注意することができるようにしたいです。引き続き子供たちが互いに学び合い相手の立場を思いやることができるように努めてまいります。